MAKE UP KEY WORD

3

“まちすじ”の景観づくり

通学路、通勤路、商店街などのように多くの地域住民が利用し、景観の特徴の連続性を感じさせる道を“まちすじ”と呼びますが、景観を考える場合にかいわいを結ぶものとして重要です。ここではまちすじそのものと、まちすじに面したまちかどで公共施設などを計画する場合に、デザイン上配慮したい点をあげてみたものです。

まちすじ

まちすじは、かいわいに住むみなさんにとっての主要な道路であり、またかいわいをつなげていくものです。そのためにまちすじを特徴づけていくための様々な工夫が必要です。また、この考え方は街のなかのどんな道にも共通する考え方です。

machisuji

◆ 1. 歩きやすい路面をデザインする

通勤・通学路・商店街などの多くの地域住民が利用する道は、安心して心地よく歩ける路面にすることが大切です。晴天時はもちろん、雨天時あるいは融雪時にも滑らず、平坦で足元に気をとられることなく、歩行を楽しむことができなければなりません。お年寄りにもやさしく、車椅子に乗った人にも安心して通れるようにデザインすることが基本になるといえます。

楽しく歩けるように、デザイン上の配慮をする。

歩道と車道の段差がなくお年寄りや障害者にもやさしい路面とする。

◆ 2. まちすじを緑化する

まちすじにあたる道路境界部は、街なみの景観形成に大きな関わりを持ちます。境界部の民地側では、高木、低木、花などを適切に組み合わせ、四季を感じさせてくれるような生け垣を演出し、できるだけ緑の連続性を維持していくことにより、まちすじとして連続性、一体性が生まれます。また、商店街などでは、協力し合いながら、統一性のあるプランター等を置くなど、街に美しさを生み出す工夫が大切です。

生け垣の続く美しいまちすじとなっている。

高木、中木、低木を組み合わせて緑を演出し四季を感じるようにしている。

◆ 3. 沿道を緑化する

道路側では、緑を効果的に配することで、うるおいが生まれるでしょう。歩道の幅がとれるところでは、車道と歩道の視界に並木や豊富な緑地帯、きれいな花の咲く木などを植栽することで、歩行者の視界を和らげるとともに、道路の表情は柔らかいものとなり、親しみやすい道空間となるでしょう。

沿道を緑化すると道路の表情は柔らかくなる。

歩道に余裕がある場合、低木で植栽すると親しみやすい道空間となる。

◆ 4. ストリートファニチャーを考える

バス停、公衆電話ボックス、街路灯、郵便ポスト、ベンチなどのストリートファニチャーは、地域の特性や周辺の環境を考慮したデザインや色彩とすると、賑わいとやすらぎのある街なみが演出され、まちすじを安全で快適なものにしてくれるでしょう。ストリートファニチャーや彫刻・フラワーポットなどは、歩道の広さや性格を考慮して数多く置きすぎないように注意し、ふさわしい場所に置くようにしましょう。

すっきりとしたデザインの街路灯。

歩道におかれたベンチ。

◆ 5. 歩行者専用道路等に工夫する

歩行者専用道路等では、緑化を行い、舗装にも配慮をするなど、歩行者の散策路、散歩道などのイメージにふさわしい、緑豊かな、落ち着いた、静かな道路景観となるように工夫する必要があります。

緑豊かなコミュニティ道路。

緑化を行い舗装にも配慮した道路。

◆ 6. 坂の魅力を生かす

都市を垂直的、立体的に捉えることは景観にとって重要です。平坦地より傾斜地のような起伏のある場所のほうが、はるかに魅力的です。北区ではそういう傾斜地や坂が多くあるので大いに期待できます。坂道で緩いスロープであれば垂直方向の移動はあまり苦にならず、歩行者にとって魅力的な空間が生み出されるでしょう。

坂道をたくみに取り入れた緑化のデザイン。

坂道には様々なデザインの可能性がある。

◆ 7. まがった道の魅力を生かす

適当に自然に曲がった道は、進むにつれて視界の変化が楽しめる、人間味のある空間として生かしていけます。周囲との調和や統一感に配慮しながら、緑化や歩道に工夫をすれば、落ち着きのある魅力的で快適な移動空間がつくれるでしょう。

まがった道は緑化や歩道に工夫し魅力的な移動空間にする。

まがった道では視界の変化が楽しめる。

まちかど

まちすじ沿いに小さな公園などのまちかど空間があります。まちすじをさらに特徴づけ、まちすじにうるおいと楽しさをあたえるために、まちかど空間の工夫が必要です。

◆ 1. 学校の塀を工夫する

学校の塀などは、保安等のために大切なものですが、一般的に、これらの施設は、景観上閉鎖的で圧迫感を生じさせることがあります。それらを軽減し、なおかつ賑わいのある街なみとするために高さを低くして視線を遮らないようにしたり、植栽等と組み合わせをして変化と柔らかさを演出したりする工夫が必要です。また、塀にペインティングや彫刻を施したりすると、変化に富んだ楽しいものとなるでしょう。

フェンスは植栽の後ろにあり、道路への圧迫感を少なくしている。

開放的で緑化された塀。

◆ 2. 公共的施設を生かす

土地柄にふさわしいテーマで、歩行者に喜ばれ、親しまれるような公共的施設を、まちかどのような人目につく場所に配置し、歩行者空間をできるだけ広くして楽しめる空間としたり、シンボルツリーや彫刻・水景施設などの整備をすることで、うるおいとやすらぎのある街にしていくことが必要です。

人目を引く装置や緑でやすらぎのあるまちかどをつくっている。

歩行者空間を広くとっている。

◆ 3. 小さな公園を生かす

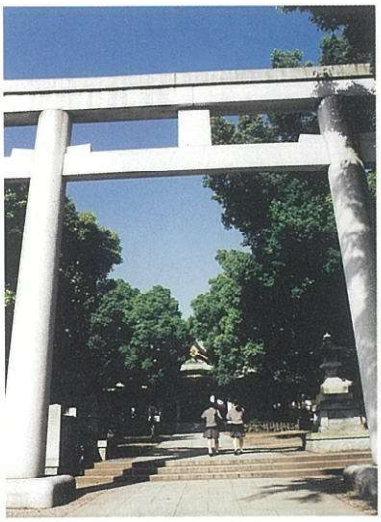
小公園等では、出入口に高い柵や植栽の仕切りをつくらず、気がつくと公園にいたり、気がつかないと通り過ぎてしまうような、街に溶け込んだ空間となるよう工夫することが必要です。例えば、舗装材の色や材質を歩道と同じにしたり、段差や仕切りを設けないようにしたり、柵や植栽で区別しようとする際は出来る限り低くすることで、まわりとの連続性や開放感が生まれ、より快適な空間が形成されるでしょう。遊具やベンチの材料は、できるだけ自然な素材を使い、周辺の地域の特徴を考慮して、形態や色彩のデザインを工夫するなど、区民が安心して気軽に利用できる、親しみのある空間をつくっていくことが大切です。

歩道から自然に入れるような小公園。

高い塀などを設けず周囲と連続性を保ち自然の素材でできた遊具がある公園。

◆ 4. 社寺の境内林を保全する

地域の歴史を伝える文化財となる大木や、住民に親しまれている神社やお寺の樹木を、地域の顔として、街の個性を高めるために保全し、景観形成に活用しましょう。例えば、歴史的建造物を引き立たせる配慮をしたり、新たに建替えるときに歴史イメージが引き継がれるよう工夫をすると、やすらぎとうるおいのある街となるでしょう。



地域の顔として境内林を保全する。

街の個性を高めるために境内林を保全する。

◆ 5. まちかどの歴史的資源を生かす

石地蔵や庚申塔などまちかどの小さな歴史的資源を街の個性を高めるために保全し、活用することが望まれます。例えば、まちかどの一角をそれに合わせて整備するとか、歴史的資源を引き立たせる配慮をするなどして、歴史イメージの継承が図れるようにしましょう。

小さな歴史的資源も街の個性を高める。

歴史イメージが継承されるよう配慮する。

◆ 6. まちかどに芸術的作品を飾る

広場や公園、空地などの中で焦点となる場所やまちかどなどは、芸術的作品を置くのにふさわしい場所です。そうした場所に彫刻などを置くことで、道行く人に高い文化の香りと楽しみを感じてもらうことが出来るでしょう。

まちかどに置かれた彫刻は文化の香りをもたらす。

MAKE UP KEY WORD

4

“ふちどり”の景観づくり

崖線、河川、大規模公園などの“ふちどり”は、
街のまとまりを創り出し、
北区の都市景観を形成する上で重要です。北区の街のまとまりや、
景観の眺望をつくる視点での配慮が必要です。

崖線

崖線は北区の地形的特徴を表すものであり、都市景観の上で北区のふちどりの景観をつくりだすものです。崖線の空間を扱う際には、こうした視点での配慮が必要です。

fuchidori

◆ 1. 崖線をこわさないようにする

北区の景観を特徴づける崖線は、斜面の景観として重要な場所にあり、最も展望のきくところです。斜面の稜線が、住宅地の建物によって破壊されないようにしましょう。また、崖線の緑は、視覚的に緑を豊かに見せるという面があり、非常に重要です。開発及び伐採は最小限にとどめる一方、区民や行政の手で植栽を進める必要があります。さらに、北区の地形上の特徴がわかるよう、周囲から緑を眺望できるよう配慮すれば、区民だけでなく、北区を訪れる人びとも豊かな緑を楽しみ、北区に愛着や親しみを感じるようになるでしょう。

北区の特徴である崖線の緑を保全する。

崖線の緑を周囲から楽しめるようにする。

◆ 2. 擁壁を工夫する

崖線では安全上の面から、擁壁にせざるをえないような場所があります。無機的で閉鎖的な擁壁は、暖かみがなく圧迫感を生じさせるものです。材料に配慮したり、前面に植栽やツタ類をはわすことにより、柔らかさを演出するなどの工夫が必要でしょう。

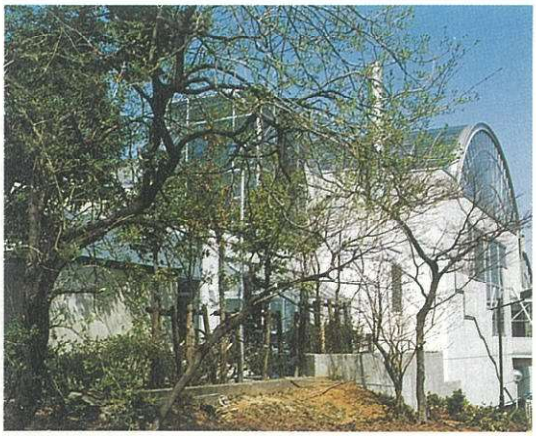
歴史を感じさせる擁壁となっている。

崖線にツタをはわせ、柔らかさを演出している。

◆ 3. 崖線上の建築敷地を緑化する

斜面の緑は景観に大きな役割を果たしますが、一旦破壊されるとその回復は大変困難なものです。崖線上に建物を建てる場合は、必要最小限の伐採にとどめて、敷地内に緑を取り入れることによって、連続した緑をくずさないようにつとめるなど、緑の景観の保全と創出につとめることが望まれます。

斜面の緑はできるだけ保全する。



崖線上に建物を建てる場合は敷地内に緑を取り入れ連続した緑を崩さないようにする。

河川

北区は荒川、隅田川、新河岸川、石神井川という４つの一級河川がある、都内でも有数のリバーフロント区です。河川空間は北区の大きなふちどりとなっており、自然とやすらぎを与える景観上重要な空間です。

◆ 1. 親水性のある堤防・護岸にする

水際は可能な限り緩い勾配で親水化を図り、周辺から水辺へのアクセス、眺望を確保できるようにしなければなりません。また、川沿いには遊歩道を設け、北区の地域性に合った植栽をしていくなどの工夫が必要です。地域性がかもし出されるとともに、ふちどりとしての連続性、一体性がつくりだされるでしょう。

スーパー堤防により親水化を図っている。

水辺の親水化を工夫している。

川沿いの遊歩道に工夫する。

◆ 2. 歴史や伝統に配慮する

リバーフロントの整備にあたっては、各々の川沿いの歴史に関係した事物、例えば隅田川の渡しなどを建物のデザインやまちかどのオブジェ（記念碑、サインなど）のデザインにモチーフとして使うなど、区民に川沿いの歴史を思い起こさせるような配慮をすることも必要です。そうすることで、地域性、歴史性のあるデザインが生まれ、川が区民から一層親しまれるものとなるでしょう。

特徴的な工作物や記念碑を活用して整備を進める。

歴史的な事物を活用して整備を進める。

◆ 3. 眺望に配慮する

川のほとりは区民が散歩し、憩いの場となるため、目の前に広がる景観は大切なものとなります。遊歩道からはもちろん、背後地からも水辺への眺望が広がるように配慮したいものです。そのためには川に面して建築物の大きな壁をつくらず川沿いの建物のスカイラインに配慮し、川沿いの街なみをととのえるようにすることが大切です。そうすることで、より一層水に親しめる景観づくりが期待できます。

川の眺望を確保することに配慮する。

広々とした河川空間を区民が活用できるようにする。

◆ 4. 水に映える効果を生かす

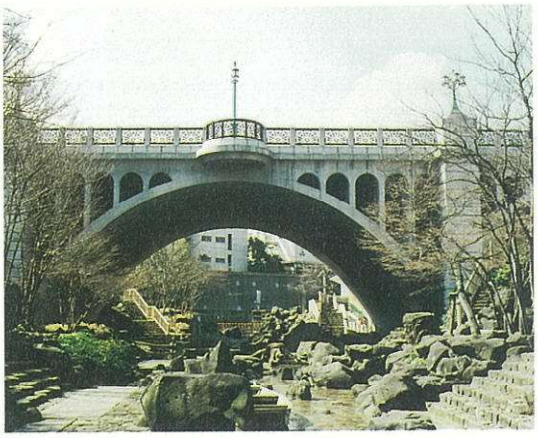
リバーフロントにある建物や街なみは、水面と一体となって景観をつくりだしています。川を正面にするように意識して建物をデザインしたり、樹木や街路灯を川のほとりに配置することなどに心掛けることが大切です。

水に映える建物。

街路灯の光が水に映える。

◆ 5. 橋のデザインを考える

橋は川からみてアクセントとなるように、特徴あるデザインとすることが必要です。また、橋は川の景観に彩りを添えアクセントにもなるため、そのデザインをするに当たっては橋のたもとに橋詰め広場を設け、川への眺望を開き、憩いや集いの場所とすることなどについても考えていかなければなりません。

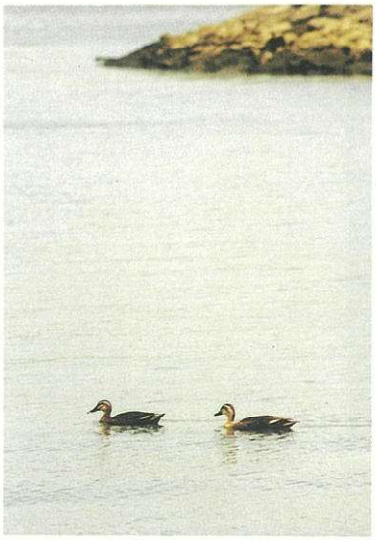


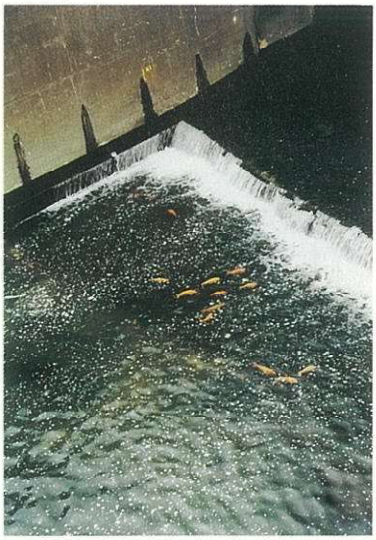
川からみてアクセントとなるデザインの橋。

川への眺望を考えたデザインの橋。

◆ 6. 魚や水鳥のいる河川をつくる

川の水はきれいであることが望ましいことは言うまでもありません。フナやコイが泳ぐ姿を橋や川沿いから眺められる川であって欲しいものです。また、川沿いに実のなる樹木を植えることにより、野鳥の聖域をつくるなど、区民のオアシスとなるよう、さまざまな工夫が必要です。





川にいる魚や水鳥の姿は人を和やかにする。

大規模公園・緑地

北区では、崖線や河川沿いに大きな公園があるのが特徴となっています。大きな公園は北区のふちどりを形成する公共空間の一つで、北区全体の景観イメージを形成する重要な景観要素となるものです。

◆ 1. 入りやすく、開放的な公園とする

公園は、多くの区民が訪れる憩いの場所です。入り口を多く作ったり、歩道の整備されている道路沿いでは、柵などをできるだけ設けず、歩道と一体性を持たせるようなデザイン上の工夫が必要です。また植栽に当たっては、緑の豊かな中にも公園の外からの見透しを良くし、開放的な雰囲気をつくることが大切です。

歩道と一体性を持たせてある公園。

道からふらりと入れるような工夫がある公園。

◆ 2. 陽だまりと木かげのある公園をつくる

公園は、四季を通じて人びとが憩い、楽しめるようにつくられることが望まれます。四季それぞれに楽しみがあり、特に冬は木枯らしから守られて暖かい陽だまりに憩い、夏は木かげに涼を楽しめるような公園にすることが大切です。

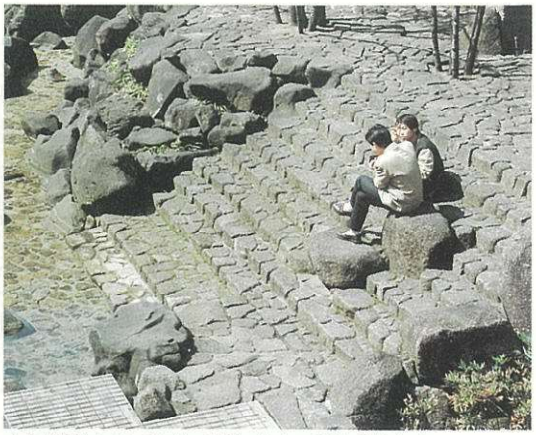
ぽかぽかした陽だまり。

日差しをさけて、休むことのできる木かげ。

◆ 3. くつろぎの場所をつくる

歩行者空間や広場などでちょっとした段差があると、そこに腰掛けている人をよく見かけます。公園ではベンチを置くだけではなく、様々な工夫をこらして人びとが心地よく腰を下ろし、くつろげる場所を工夫することが望まれます。例えば、外縁部に2～3段の階段やレベル差を設けたり、小高い場所をつくることが考えられます。それらは時にはステージとなり、心地よい交歓の場所ともなるでしょう。

公園の一角にある小高い場所がくつろぎを与える。



小さな階段もベンチとは一味違ったくつろぎの場となる。

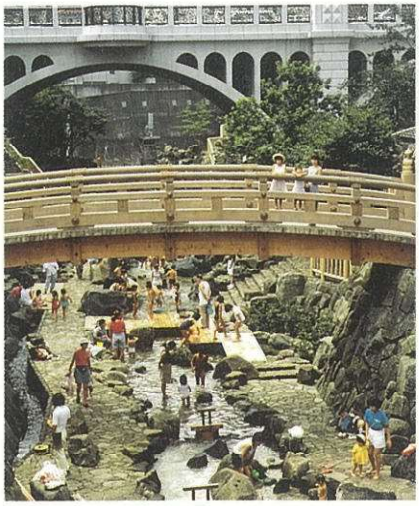
◆ 4. 目標となる中心をつくる

目標となる中心がない公園は、何となくその場にいるときの拠り所をなくしてしまい、漠然として落ち着きのないものになります。利用者は何もない空間には近づきにくいものです。そこに大きな木や彫刻、噴水などシンボルとなるようなものを置き、自分の居場所がわかりやすく、利用しやすい公園とすることが必要です。

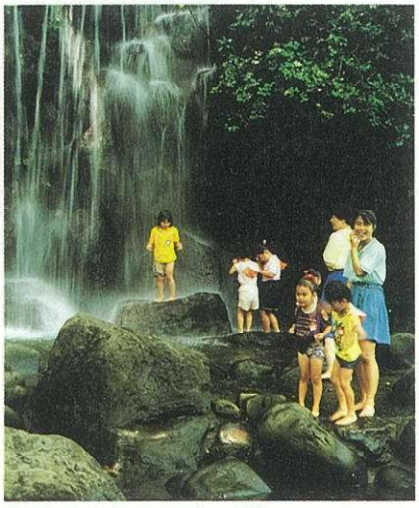
彫刻のある噴水で目標となる中心をつくった二つの例。

◆ 5. 水辺空間をつくる

敷地内の池や隣接する河川などを生かし、敷地沿い、広場等に水路等を設けて、入口への誘導等に役立て、変化のある空間をつくることも考えられます。広場・入口付近に池等を設けて特徴づけると、やすらぎ、うるおいがもたらされます。各種の変化に富んだ噴水を工夫して楽しい空間をつくったり、滝を造り、水の流れを造形的に利用して、楽しさとうるおいに富んだ空間を演出することが望まれます。



人気のある楽しい親水公園。



滝を生かしたうるおいのある公園。

◆ 6. 植栽に工夫する

公園や広場は、多くの区民にやすらぎ、うるおい等を与える大切な空間です。例えば、落葉樹と常緑樹を組み合わせるなど変化をつけることで季節感を一層強調したり、彩りをつくるために花壇等をデザインすることが考えられます。そうしたことで、より一層やすらぎとうるおいを演出することができるでしょう。

落葉樹と常緑樹を組み合わせて変化をつける。

中央部に落葉樹、まわりに常緑樹を配している。

◆ 7. 適切な材料を選ぶ

公園内の園路、広場、休憩所、遊具等の材料は、できるだけ自然な素材を用い、公園の特徴をいかした形態、意匠、色彩の工夫に努める必要があります。また、施設の配置を地形や地域に合うようにデザインすることで、地域の個性が表現され、多くの区民に愛され、親しまれる公園となるでしょう。

垂直面を強調した素材を使用する。

浅い水の流れを表すための素材を使用する。

MAKE UP KEY WORD

5

“骨組み”の景観づくり

“骨組み”となる道路や鉄道は、人や車などの移動空間です。
また、北区の骨組みを形成する公共空間でもあり、北区の景観上
重要な役割をもちます。

骨組みとなる道路

骨組みとなる道路は、北区の景観を特徴づけるものです。骨組みという視点からの道路及び沿道の景観づくりに配慮することが必要です。

◆ 1. 信号と標識の設置に工夫する

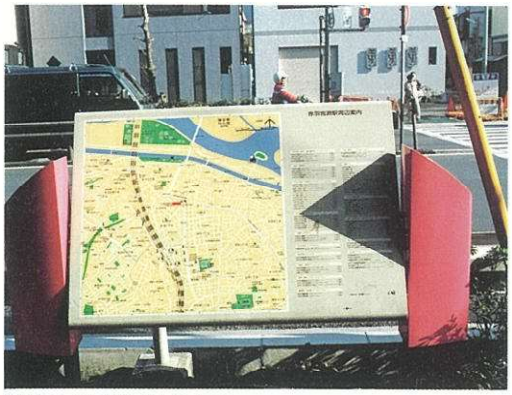
専用の交通信号と標識はできる限り道路の正面に設置するほうがよいでしょう。ドライバーは正面を見て運転しているので、できれば信号や標識は正面にあった方が街路樹などにさえぎられることもなく見やすく、見落としも少ないからです。また、周辺との調和を考え、統一性をもった見やすい信号と標識になるようデザインに工夫する必要があります。

信号と地名表示板が一体となった例。

周辺との調和を考えた信号機。

◆ 2. サインや看板に工夫する

サインや看板は目的にあった効果的な場所に設置される必要があります。同一箇所に重ねて設置された袖看板などはかえって目立たなくなる場合がありますので、すっきりとした材料や色彩、デザインに配慮する必要があるでしょう。また、交通の支障をきたさない場所に設置するように考慮し、街なみを乱すような場所に設置しないようにする必要もあります。本来の役割と同時に、地域の人々に親しまれるサイン・看板に工夫することが望まれます。



地域の人々に親しまれるサイン。

材料、色彩などがすっきりとしている。

◆ 3. 豊かな街路樹を育てる

街の風格をととのえ、ドライバーや歩行者に快適な道路環境をもたらす豊かな街路樹を育てましょう。枝を十分伸ばした自然な形の街路樹にしたり、根の成育環境を確保することが望まれます。また、街路樹は都市で四季を感じさせてくれる重要な要素であることを区民にＰＲし、落葉に対しても寛容となるなど、都市景観に対する認識、自然に対する愛情の心を育むようにしましょう。通りごとに街路樹の樹種を統一し、緑のトンネルとする工夫が必要です。そうすることで、美しい印象的な街路樹がつくりだされます。

豊かな街路樹を育て風格ある街にする。

ドライバーや歩行者にとって快適な道路環境とする。

◆ 4. 電線を地中化する

都市景観の大きな阻害要因にあげられている電線は地中化をできる限り促進する必要があります。電線の地中化により、空間がすっきりし、沿道の建物や街路樹が映える空間が創り出され、建物の設計においても今まで以上にファサードや街なみとの調和を考えるようになることが期待されます。しかし、電線の地中化により歩道上に変圧器などが設置され、逆に景観を損なう場合がありますので、その設置には配慮が必要でしょう。

電線が地中化されすっきりした道路となっている。

◆ 5. 快適な歩道を整備する

幹線道路に面した車の出入口が多いと快適な歩行環境が確保できません。沿道の設備に合わせて、車によって分断されない連続した歩道空間を整備する必要があります。車庫からの切り下げなどはできるだけ避けましょう。また、バス停などが設置されたところでも歩行者が快適に歩けるような歩道や街路樹、街路灯、植え込み、ベンチなどが配置できるような幅員の歩道を確保したいものです。その上で、歩いて楽しくなるような歩道空間となるような舗装やサインなどをデザインすることが必要でしょう。

歩行者が快適に歩けるように街路樹、街路灯、植え込みなどに配慮する。

◆ 6. 橋梁をととのえる

川にかけられた橋は川とのかかわりも重要ですが、道路交通から見てもたいへん重要な景観のポイントです。そして、道路の立体交差にある橋梁も道路景観のポイントになります。少しでも周辺の景観との調和に配慮することが必要です。例えば橋の形態を軽快なものにしたり、ゲート性を持たせたり、シンボルの役目を果たすなどの目的に合った構造、デザインを選択します。また、照明等の形態に配慮し、通行時に快適であるようにしたり、周辺の街に合った材質、色彩に配慮する必要があるでしょう。

道路上のアクセントとして橋梁のデザインがしてある。

街なみと違和感のないデザインにする。

◆ 7. 横断歩道橋をととのえる

道路等を横切る歩道橋は少しでも周辺との景観に配慮する必要があります。例えば、材質や色彩、デザイン等を工夫したり、橋脚部分の植栽をすると歩行者にとってもドライバーにとっても好ましい道路景観となることでしょう。

歩行者とドライバーの目から横断歩道橋をととのえる。

横断歩道橋のデザインを周辺と調和したものとする。

◆ 8. 高架道路を工夫する

高架道路はその大きさゆえに周辺の街なみとの調和という面で、たいへん違和感をもち、景観上問題が多いものです。高架そのものの形や素材などに配慮し、できるだけ街にとけ込んだものにする必要があるでしょう。例えば橋脚等をできるだけシンプルにしたり、スリットをいれる等、違和感のないようにすることがぜひとも必要です。さらに、まちづくりの面でも景観上、高架を意識しないですむような植栽をして、視線を上にむけない工夫をしたり、建物や施設で高架を隠す工夫もしていかなければいけないでしょう。

街にできるだけと込むようデザイン上の配慮をする。

周囲と違和感がないように工夫されている。

圧迫感をやわらげる工夫がされている。

鉄道

鉄道は北区の台地と低地の境目を主に南北方向に走り、北区の景観構造を決定している大きな要素です。骨組みという視点から景観づくりを進めていく必要があります。

◆ 1. 高架部分のデザインに工夫する

物理的にも視覚的にも地域を分断してしまう鉄道の高架は、橋脚等をできるだけシンプルにするなどの工夫が必要です。橋脚、桁部分は規模が大きくなりがちなので丸みを持たせたり、スリットを入れる等細く見せる工夫なども必要でしょう。また、植栽をしたり、ツタ類をはわせたりすることによって圧迫感が和らげられ、周辺の街なみと調和するような効果がでてくることでしょう。

構造物をすっきり見せる工夫をして圧迫感をやわらげる。

高架部分を周囲と調和させる。

◆ 2. 高架と一体となった施設をつくり、高架が見えないようにする

できるだけ街なみ景観との一体化を図るため、可能な所では高架と一体となった施設をつくるなど高架の印象を弱める工夫が必要でしょう。

高架と一体的に施設をつくり街なみと一体化させる。

高架下と一体となった商店街。

◆ 3. 高架下を利用する

高架による視覚的分断を和らげ、のびやかな空間の広がりを確保していくために、可能な所では、なにも置かない広々とした空間にしましょう。例えば、駅から離れた住宅地に面するような所では、公園風の広場として利用出来るようにするとよいでしょう。

高架下を積極的に地域のために活用する。

高架下を視覚的に調和のとれるようにする。

◆ 4. 電車の見える空間に工夫する

昔からの風物として親しまれてきた、電車の見える街の風景を大切に守っていくことが必要です。そのためには、崖の上からの眺望を上手にとりいれたり、電車の楽しめる場所を積極的に工夫して、北区らしい景観をつくりましょう。

電車の見える風景。

さまざまな視点から電車を楽しめるように工夫する。

◆ 5. 駅のホームから見える風景を考える

ホームで電車を待っているときに、目に入ってくる街の姿はその街の印象として非常に重要です。駅前広場から眺める景観と同様に、駅のホームからの景観をよくすることにより、街を訪れる人や、電車に乗っている人達の印象に残る景観づくりも考えていく必要があるでしょう。

ホームから見える風景をととのえる。

ホームから見えるスカイラインをととのえる。

◆ 6. 都電沿線からの風景を考える

区民に風物として親しまれてきた都電を生かして、沿線の緑化をするなどの工夫をしていくことで、さらにうるおいのある北区らしい景観となることでしょう。

都電沿線の緑。

◆ 7. 都電の停留所や踏切に工夫する

北区のシンボルである都電の特徴を生かした親しみのあるデザインや、わかりやすいサインに工夫して、利用者が使いやすい停留所としたり、安全な踏切にすることで、これからも、歴史ある風物として、受けつがれていくことが望まれます。

都電の停留所や踏切に景観的な工夫をする。

みんなでつくる北区の景観

てびき

● 企画 編集 北区都市整備部 ● 発行 北区役所 〒114 北区王子本町1－15－22／TEL 03（3908）1111 ● 発行年月日 平成5年7月